



「平和教養講座」のご案内

4月20日(土)

講師:南直人氏

立命館大学

食マネジメント学部 教授

企画展関連

「食からみた戦争と平和

—第一次世界大戦時のドイツを例として—

人類が経験する初めての総力戦となった第一次世界大戦では、軍力だけでなくその国の経済力全体が戦争の帰趨を左右することとなりました。とくに食料のかなりの部分を輸入に依存していたドイツは食料の欠乏に直面し、政府の拙劣な政策も相まって国民の不満が高まり、結果的にそれが敗戦につながることとなります。さらには、そうした経験がナチスの台頭を促した一要因とも考えられるのです。ドイツを事例に食と戦争・平和のつながりについて考えてみたいと思います。

5月18日(土)

講師:鎌谷かおる氏

立命館大学

食マネジメント学部 教授

企画展関連

「子供たちの「食」を守る

—学童疎開先の食生活—

学童疎開で滋賀県にやってきた子供たちは、どのような食生活を送っていたのでしょうか。今回は、疎開先の寮母が書き残した「炊事日誌」を手がかりに、当時の食生活について、子供、寮母、教師、近隣の人々等、さまざまな視点から探ります。

6月15日(土)

講師:日高昭子氏

滋賀県平和祈念館

学芸員

企画展関連

「彦根市安清町文書と滋賀新聞

にみる暮らしの中の戦争」

第34回企画展示「暮らしの中の戦争」で紹介した収蔵資料を解説します。町内会に残された文書や当時の新聞から、「身の周りの供出」、「食糧難」、「子どもの栄養状況」、「戦後の進駐軍との関わり」をキーワードに、戦中から戦後にかけての暮らしを読み解きます。

7月20日(土)

講師:山内健治氏

明治大学

政治経済学部 教授

「戦争と民俗学

—沖縄戦の伝承記録から平和創造学へ—

民俗学・人類学という学問が「戦争記録」についてどのように関わってきたのか概説したのち、沖縄戦の記憶と記録に関する事例を紹介します。また、沖縄の「ひめゆり平和祈念資料館」他の現在の取り組み・工夫や戦争が遠くなった若い世代への伝承として「平和創造学」という試みを紹介します。

9月21日(土)

講師:谷垣和則氏

立命館大学

食マネジメント学部 教授

「平和の経済学」

戦争が起きるのはどんなときか、現代の紛争の背景などを、経済学の範疇で考察している国際的研究を用いてわかりやすく解説し、ウクライナ・ロシア戦争、イスラエル・パレスティナ紛争そして中国にも言及する予定です。

受付開始 当日13:00 講義時間13:30-15:30

参加無料・定員 80名

申込方法

上記の講座は先着順となっております。

講義当日にお越しいただいた先着80名の方が講義を受けていただけます。

万が一一定員を超えた場合は、受講できないことがありますので、ご理解・ご協力をお願いします。

(会場: 2階研修室)

なお、講師から了解のあった講座は、後日YouTubeで公開します。

予約不要
です

滋賀県平和祈念館 TEL:0749-46-0300

〒527-0157 東近江市下中野町431番地

